

産婦人科家庭医療学

1 構 成 員

	平成 28 年 3 月 31 日現在	
教授	0 人	
病院教授	0 人	
准教授	0 人	
病院准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	0 人	(0 人)
病院講師	0 人	
助教（うち病院籍）	0 人	(0 人)
診療助教	0 人	
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	3 人	
医員	0 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	0 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	0 人	
その他（技術補佐員等）	0 人	
合計	3 人	

2 教員の異動状況

杉村 基 （特任教授） （2012 年 6 月 15 日～現職）
 鳴本 敬一郎 （特任助教）（2012 年 7 月 1 日～現職）
 飯田 智子 （特任助教）（2015 年 11 月 1 日～現職）

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 27 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	3 編	(1 編)
そのインパクトファクターの合計	2.09	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	3 編	(2 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	7 編	(7 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	1 編	(1 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Narumoto K, Sugimura M, Saga K, Matsunaga Y. Changes in pelvic shape among Japanese pregnant women over the last 5 decades. J Obstet Gynaecol Res. 2015;41(11):1687-92.

インパクトファクターの小計 [1.072]

- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの
1. Shiozaki A, Yoneda S, Nakabayashi M, Takeda Y, Takeda S, Sugimura M, Yoshida K, Tajima A, Manabe M, Akagi K, Nakagawa S, Tada K, Imafuku N, Ogawa M, Mizunoe T, Kanayama N, Itoh H, Minoura S, Ogino M, Saito S. Multiple pregnancy, short cervix, part-time worker, steroid use, low educational level and male fetus are risk factors for preterm birth in Japan: a multicenter, prospective study. J Obstet Gynaecol Res. 40;53-61.2014 [1.017]
 2. 松永要一、若山彩、小澤賢二郎、鳴本敬一郎、杉村基. 経膈超音波画像におけるEllips 法を用いた子宮近似楕円面積値の年齢別分布とその有用性. 静岡産科婦人科学会雑誌（第4巻1号30-35頁、2015年）

インパクトファクターの小計 [1.017]

（３）総 説

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
1. Sugimura M. Is thrombin a “toxin” in the pathogenesis of preeclampsia? Hypertens Res Pregnancy 3:13-18. 2015
 2. 杉村 基 【母体・胎児編】妊娠初期[産科合併症] 妊娠悪阻が肺動脈血栓塞栓症の誘因となることを忘れるべからず 周産期医学 45 巻増刊： 97-100 2015
 3. 杉村 基 実地内科医の診療と専門医との連携の実際と留意点 産婦人科疾患 妊婦の高血圧 Medical Practice 32 巻：1412-1416、2015

インパクトファクターの小計 [0.00]

- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

（４）著 書

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
1. 杉村基 妊娠高血圧症候群の診療指針 2015 日本妊娠高血圧学会ガイドライン改定委員会編 メジカルビュー社 2015
 2. 杉村基 鉄剤の適正使用に関する貧血治療指針 改定第2版 日本鉄バイオサイエンス学会 治

3. 鳴本敬一郎、杉村基.「骨盤計測と分娩管理」. 特集/分娩管理の新機軸産科と婦人科. 2015;82(12):1-10
4. 鳴本敬一郎、杉村基.「現代女性の骨盤形態の実態とその経年的変化」. 分娩と麻酔. 2015;97:23-28.
5. 鳴本敬一郎、杉村基、松永要一、若山彩、堀江典克、藤井肇、飯田智子、城向賢.「周産期医療における人的資源の確保：新たなキャリアパスの発展」. 静岡産科婦人科学会雑誌（第4巻1号 36-40頁、2015年）.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 松田真和、岡崎友里、飯田智子、鳴本敬一郎、杉村基.「妊娠したい人へのケア」. お母さんを診よう プライマリ・ケアのためのエビデンスと経験に基づいた女性診療. 中山明子、西村真紀編集. 2015年4月. 南山堂.
2. 松田真和、岡崎友里、鳴本敬一郎、杉村基.「家族の感染症罹患とその予防」特集 妊婦・褥婦が一般外来に来たら エマージェンシー&コモンプロブレム. 総合診療. 2016;26(1):53-58.

（5）症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. 若山彩、松永要一、青島正浩、松田真和、鳴本敬一郎、杉村基.「不正性器出血を主訴に来院した外陰部乳房外 Paget 病の1例」 静岡産科婦人科学会雑誌（in press in 2016）

インパクトファクターの小計 [0.00]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

4 特許等の出願状況

	平成 27 年度
特許取得数（出願中含む）	0 件

5 医学研究費取得状況

（万円未満四捨五入）

	平成 27 年度
（1）科学研究費助成事業（文部科学省、日本学術振興会）	1 件 （160 万円）
（2）厚生労働科学研究費	0 件 （0 万円）
（3）日本医療研究開発機構(AMED)による研究助成	0 件 （0 万円）

(4) 科学技術振興機構(JST) による研究助成	0 件	(0 万円)
(5) 他政府機関による研究助成	0 件	(0 万円)
(6) 財団助成金	0 件	(0 万円)
(7) 受託研究または共同研究	0 件	(0 万円)
(8) 奨学寄附金	0 件	(0 万円)

(1) 科学研究費助成事業 (文部科学省、日本学術振興会)

プロテアーゼ活性化受容体—細胞内シグナル伝達系を介した絨毛細胞障害修復機構の検討(代表) 平成28年まで (日本学術振興会 基盤研究C) 4 8 1 万円

6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表, 総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件	1 件
(2) シンポジウム発表数	0 件	1 件
(3) 学会座長回数	0 件	3 件
(4) 学会開催回数	0 件	0 件
(5) 学会役員等回数	0 件	4 件
(6) 一般演題発表数	0 件	

(1) 国際学会等開催・参加

(2) 国内学会の開催・参加

1) 主催した学会名

2) 学会における特別講演・招待講演

1. 鳴本敬一郎, “骨盤形態の変遷とその決定要因” 第 67 回日本産科婦人科学会学術講演会, ランチ
ョンセミナー「骨盤形態と胎内不良姿勢」にて講演。2015 年 4 月 11 日 (神奈川)

3) シンポジウム発表

1. 杉村基 静岡県における産科医療再生のための実験的試み 産科医療の再生に向けて一地域での取り組み 第 130 回関東連合シンポジウム (千葉) 2015

4) 座長をした学会名

1. 日本産科婦人科学会
2. 日本周産期新生児医学会
3. 日本妊娠高血圧学会

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

杉村基 日本妊娠高血圧学会理事、日本血栓止血学会評議員 (肺血栓塞栓症/深部静脈血栓症予防ガイドライン作成委員会委員、学術標準化委員会委員、学術促進委員会委員)、日本周産期・新生児医学会評議員 (幹事、広報委員)、日本産婦人科・新生児血液学会評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国 内	外 国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0 件	0 件

（1）国内の英文雑誌等の編集

Motoi Sugimura, Editorial Board, Hypertension Research in Pregnancy

（2）外国の学術雑誌の編集

（3）国内外の英文雑誌のレフリー

杉村基 Obstet Gynecol Res 7 回

 関東連合地方部会誌 2 回

鳴本敬一郎 静岡産科婦人科学会雑誌 1 回

 Asia Pacific Family Medicine 2 回

9 共同研究の実施状況

	平成 27 年度
（1）国際共同研究	0 件
（2）国内共同研究	0 件
（3）学内共同研究	1 件

（3）学内共同研究

浜松医大遺伝子診療部・浜松医大内科学第一講座との共同研究

「プライマリ・ケアにおける家族歴質問紙によるリンチ症候群の拾い上げ効果の検討」

平成 27 年～28 年、森町家庭医療クリニックにおける家族歴質問紙を用いた介入。現在データ分析中。

10 産学共同研究

	平成 27 年度
産学共同研究	0 件

11 受 賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. プライマリ・ケアにおける家族歴質問紙によるリンチ症候群の拾い上げ効果の検討。浜松医大遺伝子診療部・浜松医大内科学第一講座との共同研究。平成 27 年～28 年、森町家庭医療クリニックにおける家族歴質問紙を用いた介入。現在データ分析中。
2. プライマリ・ケア診療での家族歴質問紙を用いたリンチ症候群スクリーニングにおける患者の視点：質的研究。浜松医大遺伝子診療部・浜松医大内科学第一講座との共同研究。家族歴質問紙を用いたリンチ症候群拾い上げの過程における患者視点の質的研究。methodology の再検討中。
3. 学童期から思春期における骨盤形態と身体活動との相関に関する前向きコホート研究。菊川市内および他県の小学生、中学生、高校生を対象に、身体活動量と骨盤発達および形態の関連性を調査。初年度のデータ解析により、中学生において中等度～強度の身体活動量と左右径の骨盤発達との関連性が

示唆された。現在 2 年目のデータ収集中。

4. 乳汁組成の変化と分娩のタイミングの関連性。菊川病院産婦人科に通院する満期の妊婦を対象とした研究。現在データ収集中。妊娠 37 週 0 日より、乳汁の pH を測定してもらい、分娩までの pH 変化の記述的分析を行う。

13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

15 新聞，雑誌等による報道